

学校目標・経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成
-----------	--

本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くてきている。
	2. 日々の教育活動をおとして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3. 生徒個々の希望と適性に応じた進路の実現をはかる。		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
	4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。		D	達成できなかった。(4割未満)		1	できていない。
	5. 教職員の多忙化改善に向けた取り組みを行う。						

自己評価				年度末評価(令和6年2月1日現在)	
本年度の重点目標				自己評価結果	達成度
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標		成果と次年度への課題・改善策
1	生徒への教育の質を保証する(生徒理解に努めながら学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫)	◎学び続ける教員による授業の充実を図る ・山梨スタンダードに基づいた授業実践により「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善に取り組む。(ICTの利活用を行う) ・相互事業参観や授業研究、教員研修を通じて、教員の授業力向上に努める。 ・やまなし教員育成指標に基づき常に学び続けることを意識し、自己研鑽に努める。	・授業アンケート ・ICTの活用状況	◎笛吹GPと育成を目指す資質・能力の整合性を図り、より活用できるものにするために、全職員で協議し、新しい笛吹GPを設定した。○「授業アンケート」「相互授業参観」を継続実施し、教員の授業力向上、授業改善に取り組んだが、相互授業参観への参観率が5割以下だった。○校内の職員研修をワークショップスタイルに変え、職員が主体的に研修に参加する研修会を2回、研究開発運営指導委員による研修を4回実施し、職員の資質向上を行った○ICT活用推進を図るため学習支援ツールとしてClassiを導入し、土曜講座に位置づけ、配信授業を実施した。年度の後半からは生徒が家庭学習として取り組めるよう時間を決めてオンラインで課題を配信した。○「今未来手帳」は、進路選択時に必要となるポートフォリオの記録として有効であり、学校行事や全校集会、総合的探究の時間の記録や振り返りができるよう記帳を促し、同時にClassiへの入力も勧めた。また、学習活動以外でも部活動での目標管理や練習記録の整理等などに活用する生徒もいる。○教育課程については、STEAM型の学校設定教科「FFグローバル」を設定し、1学年の食品化学科、果樹園芸科、総合学科で実施した。探究学習を通して、問題発見・解決能力や情報活用能力、言語能力の育成や協働的な学びの実現を図ることができるような取り組みを行った	B
		◎生徒の家庭学習の推進を図る ・生徒が自己の生活を見つめ、主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、ICT学習支援ツールと今未来手帳の活用に取り組む。	・Classiや今未来手帳の活用状況		
		◎個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る ・教科横断型STEAM型の新教科を設定し、生徒に言語能力、問題発見・解決能力など学習の基盤となる資質・能力を育成することを目指す。 ・4学科の特徴を生かし、生徒一人一人に応じた学びが実現できる教科やカリキュラム開発を行う。	・相互授業参観の状況 ・カリキュラムデザインの進捗状況		
2	生徒が安心安全な学校生活を送ることができる学習環境をつくる(良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫)	◎いじめの未然防止に努める ・いじめ調査に併せ、生活実態の把握に努め、予防的な指導の充実を図る。	・教職員間の情報共有 ・保護者との情報共有と情報発信	◎担任が生徒の状況把握に努め、対人関係、家庭環境、心の悩み等を学年職員、関係職員で共有し、いじめの未然防止や適切な対応を行うことができるように努めた。○金曜日1校時の主任会議での情報共有や毎月実施のいじめ対策委員会を通じて、悩みや問題を抱える生徒について継続的な状況把握や連携した対応につなげることができた。○毎朝の登校指導や各種集会での安全指導等を通じて、交通ルールマナーの徹底を図った。ヘルメットの着用を呼びかけたが、継続的な着用率の向上につなげることができなかった。○保健室と担任・学年との間で情報共有に努め、生徒の支援につなげられるようにした。生徒の抱える困難や悩みによっては、スクールカウンセリングやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒支援の充実を図った。○授業、クラブ活動、登下校など学校生活全般を通して生徒の安心安全を確保できるように、組織的な対応を行った。	B
		◎担任、副担任の連携・協力によるホームルーム指導を実施するとともに学校全体で情報共有を図り、組織としての適切な対応に努める ・生徒一人一人が抱える課題に着目し、個性を認め、個別の発達を支援するホームルーム活動を行う。 ・学校全体で情報を共有する体制を整備し、組織的な対応を行う。	・登校指導の実施 ・学年・学科集会など様々な場面での指導		
		◎生徒の安心安全な学校生活を確保する ・授業、クラブ活動、登下校など学校生活全般における生徒の安心安全を確保する。	・学校生活の充実感 ・教育相談の充実 ・危機管理の徹底		
3	進路指導を充実させ、生徒の進路実現を図る(各々の適性に応じた進路を実現)	◎習熟クラス、少人数授業等編成目標に応じた学習指導を行い、進路実現を図る	・相互授業参観の状況 指導と評価の一体化	◎普通科の1学年は2クラスであるが、少人数の習熟度別授業を展開できるようにして学習内容の定着を図った。○学習支援ツール導入にあたり、土曜講座の回数を昨年度より増やして家庭での学習時間の確保を目指した。○より実効性のある進路指導を図るため、外部模試の計画を見直した。また、各回の模試データを各教科主任にフィードバックして成績の現状把握と教科指導への反映を促した。○進路対策として、生徒のパソコンからClassiの学習マップ機能等を使って、外部模試の事前学習や振り返り課題に取り組めるようになった。○昨年度まではコロナ感染予防のため行事への制限があったが、今年度は学校独自の進路ガイダンスの実施や笛吹市と連携した就職説明会など外部と連携した多様な学習の機会を増やした。生徒は主体的に参加し、自らの進路の理解と関心を深めることができた。○3年生の進路指導には全教職員を挙げてのきめ細かい指導体制を組んでいる。生徒アンケートではキャリア教育に関する観点で高い支持を得ることができた。○Classiやホームページを活用して生徒や保護者への情報提供を積極的に行った。また、生徒個々の進路実現にきめ細かく対応できるよう、二者懇談、三者懇談を充実させた。	B
		◎生徒、保護者の意向を調査・把握し、進路希望を実現するための具体的な手立てを講じる ・生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。	・二者懇談・三者懇談の実施状況 ・各種便り、HP等の充実		
		◎課外授業や課外指導の充実を図る ・土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。	・多様な学習機会の提供		
		◎進路行事や総合的な探究の時間等を通してキャリア教育の体系化を図る ・「総合的な探究の時間」「課題研究」「FFグローバル」での探究活動を通して、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。	・計画的な進路ガイダンスの実施 ・地域社会への関心度		
4	これからの時代を生きる生徒に必要な資質・能力を育成する。(具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協働しながら課題解決する力を育む)	◎生徒が地域の課題発見・解決に主体的に関わり、社会参画できる実践的な活動を行い成就感や自己肯定感を高める	・総合的な探究の時間の充実 ・学校運営協議会との連携による活動	○コロナ前と同様本校敷地内で「ふれあいフェスタ笛吹」を実施し、多くの地域の人々に野菜や食品を販売したり交流を深めることができた。○地域社会への貢献としては「エルカム笛吹で石和温泉駅周辺への花の提供のほか」、川中島合戦のボランティア活動に多くの生徒が参加して地域社会の一員としての所属感が得られた。○生徒の学校評価アンケートから、「笛吹市との連携活動に生徒は主体的に参加している」「生徒は成就感や自信を持つことができている」の2つの項目においても6割を超える肯定的な意見が寄せられた。	A
		◎学校行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する	・生徒会活動の充実 ・広報活動の充実 ・笛吹市との包括連携による活動		
5	教職員の多忙化改善に向けた取り組みを行う	◎業務の平準化を図る ・会議等の効率化、行事・分掌の見直しを行う。	・会議や行事の精選	○分掌の業務を見直し、組織の改編を行った。○会議の時間短縮を図ることができるよう、連絡・報告事項は運営委員会に出席している主任が各グループで質問に答え、それ以外のものを全体にかけられる形式で実施した。○行事の見直しに関してFormsでアンケートを行い意見を集約した。○部活動が年間指導計画に基き効率的な指導が実践できるようによりに促した。	B
		◎部活指導の適正化を推進する ・年間指導計画に基づく、適正な部活指導を実践する。	・部活動の実施状況と活性化		

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月15日)	
評価	意見・要望等
3	○先生方の資質向上に向け、「ワークショップスタイル導入」「相互授業参観推進」等、年々工夫を凝らし学ぼうという姿勢が見られ、素晴らしいと思う。継続して積極的に推進してほしい。○教育の質保証という目標達成のために、魅力ある授業作りを教員皆で取り組まれている。相互授業参観や授業研究、教員研修は、教員の授業力向上に直結する取り組みと思われるので、今後も有効活用して実施していくのが良い。○笛吹高校の特色である4学科の学習がFFグローバルなどの新しい取り組みで生徒一人一人に応じた学びができていくことを期待している。2年目・3年目となってくと新しい課題や問題点が見えてくと思うので、取り組んでみてどのように感じているかなど、取り組んだ結果も踏まえた感想を先生や生徒から今後は聞いてみたい。○過日の「高校生世界農業遺産サミットの授業を拝見したが、ほとんどのクラスで板書がなかったことが残念であった。また、生徒たちの考えをまとめていく上で、付箋の活用をほとんどのクラスで行っていたが、全く付箋の使用をしていないクラスもあったのではないか。授業を進める上で、各クラスの進め方を統一するのが良い。
	○個を大切にするための「多様性への対応」が、最近には必要になってきている。そのためには、生徒理解が一番大切である。ホームルーム(担任、副担任)を中心に、学年組織や学校組織、また、関係機関との連携も含めて、しっかりと情報共有ができていと感じられる。また、その一方で、育てるべき資質・能力からは「共通性の確保」も必要になってくる。○社会が多様化、複雑化しており、生徒たちの悩みも多種に及ぶと思う。悩みや問題を抱える生徒をいち早く察知できるよう、生徒との対話の時間を多く持ち、コミュニケーションを図り、話しやすい環境を構築する事が大切と思う。○来年度学級経営や人間関係づくり、またチーム支援に関する教職員研修を実施することが必要だと考える。○自転車着のヘルメットの着用率は低いと言うが、1年前に比べると大分向上しており、他校と比べても低いと言う事はないと思う。先生方のご指導の成果である。しかし、生徒達の安全の為に、100%に近付けるよう継続して指導して行くことが必要である。
	○笛吹高校は他校と比べ、特色のある授業をしていると思う。生徒達に職場体験や現場実習、地域社会に興味を持たせるような機会を多く設けており、多様な経験をさせ、自身の進路について考える機会を多く持たせている。今後も多様な学習の機会を設けてもらいたい。○進路指導を充実させ、生徒の進路実現を図るためには、やはり生徒に基礎知識や、力を付けていくことが大切である。笛吹高校で行われている様々な取組を引き続き充実させ、適切な進路選択ができ、実現できる生徒の育成に努めてほしい。○高校に学区制が敷かれていたころは、前身の石和高校・園芸高校と市内中学校はより強い連携体制が築かれ、授業研究会などを含めた進路対策の会議や研究がなされていた。学区制がなくなり全県一区となったことから、このような状況を作り出すことは難しいと思うが、中高の連携を更に高めていただければ考える。
4	○地域産業が抱えている地域の課題や問題点を探り、地域活動に参画する担い手として、自分たちの目線で取り組む姿勢は、実践的な学習として将来への結びつきとなり、人材として非常に期待している。○学校における課題解決型学習 PBL(Project Based Learning)の実施は、全国的にも求められおり、よく実施されていると思う。解決策の回答についてベストアンサーはないが、生徒が考えた回答の中には、思いも寄らない発想や方向から解決策が提案されることがある。それらをきちんと拾い上げられるよう、教員側のセンスも磨く必要がある。
	○教職員が元気で、さわやかに取り組んでいる姿を見せることが、生徒への良い影響になると思う。そのために、物理的に業務の見直しを行うことはもちろん、教職員の意識を変えることも必要になってくる。○取り組みの足し算ばかりでは、ただ仕事量が増えるばかりである。目標達成のための新たな取り組みもよいが、既存の取り組みのなかで、目標達成のためには非効率と思われるもの思い切った廃止を行うことも大切。また教職員も多様化しており、各教職員ごとに得意であったり不得意であったりする業務がある。分掌では機械的に人員を配置するのではなく、そのような特性も更に配慮して業務を均等に分配することで、各教職員の負担を減らすことが出来るのではないかと。